

その他コロナ禍における寺院活動・行事等について、ご意見や感想、経験談などをご自由に記入してください。（63件の回答）

○集計結果について、僧伽かホームページに掲載願います。

○令和2年に予定していた五重相伝の延期。定期法要の参拝者は半分くらいに減少。年忌も見合わせているお宅も多く実施しても家族だけでというのがほとんど。外に出ている子供や孫とオンラインで繋いでお参りするお宅なども有り。葬儀も近い親族だけで、一般参拝は葬儀開始までに受付焼香を済ませるなど...

○玄関・座敷・トイレ等に消毒できるよう準備してお茶出しはペットボトルにさせてもらった

○換気、消毒等安全衛生面の強化を図った。

○本年、各行事は何とか勤めることが出来ましたが、その中で法話等の教化活動は残念ながら出来ませんでした。コロナの推移状況もありますが、今後どのような形で教化活動を実践していけるのか暗中模索の状態です。

○食事は基本なしにしています

○法要は、お勤めのみで法話等無し。春の彼岸会以外は、食事は持ち帰り。十夜法要の数珠繰りは、軍手の着用。

参詣者はマスクの着用と、消毒液による手洗いの徹底を実行。月参り・棚行参り・法事は、マスク着用にて細心の注意を払って実施。

○月参りなどはマスクとアルコールを常時持参、檀家さんとの会話も手短にと心がけています。4月に予定していた五重相伝を一年延期にしたが、来年に開筵できるかどうか不安を感じる。

○マスク外さず 消毒液こまめに 感染予防出来る限りする事しかありません。皆様と一緒にございます。

○彼岸・十夜法要中の塔婆回向は出席者の分だけとし、参拝者帰宅後に住職一人で欠席者分の塔婆回向をさせていただきました。また、行事での法話は法要後の休憩を挟まず30分とし、以前よりかなりの時間短縮になり、参拝者には1時間弱で退席していただくということで、スムーズに檀家様からのご理解を得ることができました。

○プロジェクター等の大型モニターがあればオンライン説教を複数寺院で同時視聴出来るかなと思いました

○本堂での法要では、三密回避のために、換気、アルコール消毒、マスク配布などを実施いたしました。

○法要後の参詣者の食事はなしで、弁当を持ち帰ってもらった。

○コロナ滅菌の器具を設置し換気をして一部制限し法要を施行した

○参拝にはマスクと手洗い(消毒)を徹底してもらい、座席を広めにとり、症状のない場合は自分が感染しているかも知れないとの思いで参拝してもらっています。(マスク、手洗い、大声を出さない事の徹底のため)

また、インフルエンザとの比較(死亡者数、年齢、後遺症等)伝えています。

ネットを見る人には「コロナ制圧タスクフォーム」・東洋経済のデータ・宮沢孝幸氏(ウィルス学者)等を紹介しています。

○葬儀式は完全に単独葬になりました。寺の維持運営にはそれが一番差し支えですね。あれこれ色々と新たな試みもするものの法事ごと仏事ごとを疎ましく考えている世代に移行しつつあり、根本的改革というか改善策はなかなか思いつかないです。五重相伝を開き辛く仏教への入り口まで引いて来ることがなかなか困難になってきました。

○参詣の有無に関わらず毎月発行している「寺報」で行事案内や近況報告、紙上教化等につづけることができた。参詣者は少なくなったが詠唱会・写経会は一時休みとしたもののすぐに再開することができ別時念仏会は毎月つづけることができた

○縮小は余儀なくされたが、各種の法要、別時、仏教講座、朝参会は環境に配慮して実施した(3~5月は中止)

○会食は一切取り止めて必ずマスクを着用(鼻出しは厳禁)を義務付けて行っています。また、月参りに行った時は、そのお家のかたには必ずマスクを着用していただきます。ただしあまり神経質にならないように気をつけております。余りやりすぎると、コロナの後、現状復帰が難しくなりそうで心配です。

○お盆の墓参りを一部事前予約制とし、予約状況をネットで公開し見える化を行なった。ネットの利用については高齢者層が出来ない等の問題はありますが、この先必要不可欠になると考える

○寺院からコロナウイルスの感染を出さないよう行事があるたびに気を使う。今後の行事の方向性が見えないので(五重・晋山式)予定がつかず困っています。

○秋季彼岸法要は法話をなくし、随時回向にした結果、毎回100人程度であった参詣者数がいつもより多くなった。理由としては本堂での滞在時間が少ない為家族で参詣された方が多くあったこともひとつの要因であろうか。

また申し込みの塔婆の本数も、前年の2倍多くなった。毎回、法話、お勤めの時間は合わせて3時間をかけていたが、檀家の多くはそれを求めていなかったのかと…。今回、考えさせられる法要となった。

また、法事の多くが(特に満中陰)お寺にての法要を依頼され、普段お寺に参詣しない檀信徒が多く参詣され、御本尊様に手を合わせてくれる結果となった。

○①葬儀件数が例年より激減したのはコロナな影響ありか？

②葬儀の小型化(三仏葬儀から一仏葬儀へ変化して、寺院経営に影響がでてくるのではないか？

③等級を下げる寺院が増えてくるのではないか？

④一宗課金、教区課金を従来より下げる必要があるのではないか？

○参詣者に手指の消毒とマスク着用をお願いし、イスとイスの間隔を空け換気をして法要した。施餓鬼法要は施餓鬼棚を外陣から外に向けて設け随喜ご寺院は本堂廊下で塔婆回向していただいた。

○月参り、法事、法要出欠等すべて檀信徒個々の判断に任せました。

○月参りは読経中もマスク着用。棚経では引磬、携帯木魚を持参。年間法要は通常通り行いましたが、大幅に参詣者は少なくなりました。ネットでの動画配信を開始しました。

○高齢者の方が多いことから、檀家総代が多人数での法要実施は控えたいという意見で、今年度は春から参拝を見送っております。年忌は通常通り、棚経や月参りも行かせていただいておりますが、自身が外で兼職しておりますので、健康管理には気を配らないといけないと常々感じています。

○短時間ですます様に心がけた。

○役員と共に協議しながら、行事等を実施することで、檀家様に寺側の思いが良く理解していただけている。

- ・いずれの法要も、マスクの着用と手の消毒を徹底しました。また座席の間隔も十分に取るようにしました。
 - ・法要の参拝につきまして、コロナ禍の為、檀家様の判断におまかせしますと案内のハガキを出しました。

- 恒例の法要である、花まつり・別時念仏会・地藏会・十夜法要は取りやめた。今後も、御忌・涅槃会は中止または無参拝にて行うことになるだろう。ウイルス除菌用の器具を導入したが、本堂での年忌法要も無く、この器具を利用していない。なお、秋の法要は本堂廊下で随時焼香を案内したが20人程度の参拝でしかなかった。

- 詠唱の練習は講員の希望で定期的ではないのですがたまに集まってできる限りの感染防止対策をして行いました。

- コロナ禍を理由に月参りを断わられたがその後もずっと棚経も断られたお宅が数軒あった。

- 縮小した後の復帰するタイミングが難しい。

- 椅子の間隔を開けて座ってもらい、マスクの提供をして必ず着用してもらった

- 今のところは、検温、マスク、除菌スプレー、ソーシャルディスタンス等、対策を徹底しているつもりで、変わらず務めています。毎回法要の度に悩んでいます。

- コロナによって亡くなられた方がこの1年間に3名おられました。私のお寺はまだまだ田舎なのでコロナで亡くなったとは村には中々言えないし知られたく無い。（コロナで亡くなったとなれば村に居られなくなるとお思われている）田舎特有の悩み事があります。ある一家は家族で感染されて昨年10月以来まだ自宅に戻れない状態です。これは寺院活動とは別の問題ですが田舎特有の閉鎖的な問題も起こってます。

- コロナ禍で寺院法務が大変です。ワクチン接種が1日も早くはじまり、収束に向かうことを望むしかありません。

- コロナに関わらず、最近は墓じまいなどの離檀が増えており、困ってきつつある。

- 3月末より、月参り時に書面にてマスク着用（読経時は外す旨のお願い含む）、手指消毒、公共交通機関を使わない旨、日々の自身の健康管理及び毎日の検温等を講じて月参りを今まで通り致します。との説明文を配布した上でお参りしておりました。

4月末には、ある檀家さんより、『大阪参りをされているのであれば、お休みして下さい。』との申し出も実際ございました。

○定期法要や念仏講は通常は食事とお勤めがセットであったがこれを機に食事を止めたらとの講員からの意見があったのが残念、こっちは楽だがその楽に流れてしまったらお寺と講員との繋がりが希薄になっていきそう。食事の無い詠唱講は4月5月6月と中止したが再開した時は講員から会えないのは寂しいとの意見があった。お寺で食事を作る、みんなと食べる、談話するという行動がコロナ禍で無くなった。

○年忌・法事はやや減少ですが、集われる方が圧倒的に減少した。...ある檀家ではパソコンでリモート法事をされた。...驚いた！除夜の鐘を考慮中、檀家以外が多いので中止や変更の連絡が出来ない。

○マスク・消毒・手洗いを確実にして三密を避ければ通常の寺院活動が可能だと考えています。研修会や懇親会、総会も無理して実施しなくてもよいと思います(状況が好転するまで)

○時節柄、法要、葬儀、年忌等の簡略化の声をよく聞きます。その声に迎合し過ぎると・・・念仏信仰の低下も進み、寺院運営も益々厳しくなると感じます。

○彼岸会や施餓鬼会、お年忌など全て短時間でお勤めしています。寺方もお檀家もいつ感染するか解らず。ビクビクしながら。

○来年からの年間行事に不安を感じてます 1日も早く終息を願ってます。檀家によってはかなり不安を抱えております。

○法要・儀式・法話時間の短縮簡素化が将来定着化するのでは？心配。

○収入が減少している。宗課金等の期限猶予でなく減額を検討してほしい

○法要時に皆マスクを着用してもらいました。随喜寺院にはソーシャルディスタンスを十分にとってもらった。

○マスク、検温、アルコール消毒の徹底

○いずれの行事も食事は中止。法要のみで時間的にも短くしました。

○寺院活動、行事 不可能になったのかと思う。これから何をすべきと思うも檀信徒も大変な時代になってきているように思う。お寺のことどころではないと思っているのではないか。

○4月10日から1ヶ月間、月参りの中止をお寺から連絡した／4月末にオンラインでの法事の案内を配布したところ、1ヶ月に3軒程度の申し込みがあった／棚経参りは各家に案内を送付し、通常通りに自宅にお参りするか、お寺でオンラインでのお参りをするかを選択し返信してもらい、オンラインを希望される方には8月16日に本堂で一軒ずつの棚経参りを行い、その様子を配信した。

○コロナ禍の中で当山としてはマスクの着用、消毒液の活用、人と人との間を空ける（ソーシャルディスタンス）をできる限り徹底して行いたいと思っております。当たり前に行えることをきっちりしていくことが大事だと思います。

○当方も檀家さんも感染症に注意しながら宗教活動を実施している。

○保健所に確認し対応策を作り組内、友人に配信した。後でそれを手本に浄土宗が対応マニュアルを作成され全国に配られた。

檀信徒には、休業要請期間中休む知らせと共に、期間中葬儀等がある場合の拙寺としての対応を配布した。

赤外線放射器でスマホや用品を消毒するようにした。

保健所の教示で嗽により道場や家庭内で感染リスクが存在することが分かり、軽減策を考案し、学術大会パネルディスカッションで紹介した。

○寺側は必要な対策を取った上で、参詣の方々、役員さんも協力して、年間行事を大体ほとんど通常に近い状態でやってくれた。参詣の方はいくぶん少なかった。4月の御忌法要は取りやめにした。

○月参り、法事、年間行事、お葬式ではマスクを付けて行った。客間や本堂はこまめに換気し玄関等には消毒液を置き間隔をあけて先を配置した。お茶をペットボトルに変更した。各行事等全て食事は取りやめた。お葬式では親戚が地方から帰って来られないので少人数のお葬式が増えた。法事等も少人数になった。コロナで収入が減った。お塔婆の申し込みが減った。

コロナ禍で月参りが休みになり何回か続いたのちお盆のお参りだけ結構ですと断られた。

○リモート(オンライン)会議を、本山の研修会で体験しました。こんなコロナ禍の中での一つの方法とは思いますがシステムやメカに弱い私としどうすれば良いのでしょうか...